



みんな違って
みんないい。

慈愛園子供ホーム基幹的職員
熊本YMCA常議員 水前寺YMCA運営委員
水前寺ワイズメンズクラブ

山内 恵美さん

化粧品メーカー社員から 「人と関わる仕事」への大転換

東京の大学を卒業後、化粧品メーカーに就職。販促企画を担当するなど責任ある立場だった山内恵美さん。厳しい中でも華やかな業界でキャリアウーマンの階段を昇っていた山内さんにある自問から転機が訪れました。「このまま会社のために働き続けて何になるの？私は誰かの役に立っているのだろうか」。通っていたキリスト教会の牧師に相談すると、たまたま宣教師事務所に空きがあるとのこと。仕事は、日本に逃れてきた外国人の亡命申請や生活支援を行うという、これまでとはまったく違う内容でしたが、迷わず退職を決意。ここから山内さんにとっての「人と関わる仕事」が始まります。

熊本市の児童養護施設 慈愛園へ

難民支援の仕事のかたわら、社会福祉士の資格を取得。山内さんは親と離れて暮らす子どものために働きたいという思いを強くしていきます。静岡の児童養護施設の立ち上げに関わり経験を積んだ後、4年前から熊本の児童養護施設『慈愛園子供ホーム』で働いています。

山内さんが中学1年生の時に両親が離婚。父方の祖父母がいる大分で高校まで過ごしました。「今の仕事をしているのは、私自身の生い立ちも理由の一つなのかもしれません。もし私がもっと幼い時に両親が離婚していたら、私の境遇はまったく違ったものになっていたかもしれない」。

慈愛園には、現在、2～18歳の71名が様々な理由により親元を離れて暮らしています。昔から今も変わらない慈愛園の子どもたちの問題は「貧困」と隣り合わせであること。ところが、近年の傾向に山内さんは懸念の表情を隠しませんでした。

貧困、虐待を乗り越えられる社会へ

親から子へ連鎖する貧困と虐待

ある日、4歳の女の子が入所してきました。ネグレクト(育児放棄)が疑われていたケースです。その子は当時、終始無表情。いつもよだれを垂れていました。「しょんべん」。これが、彼女が発する唯一の言葉だったと言います。

身体的虐待を受けていたり、ネグレクトが疑われる子どもたちの入所が全国の児童養護施設で近年、確実に増えています。「一概には言えませんが、傾向としてシングルマザーの子どもは問題がより深刻です。例えば、母親が精神疾患を患っていたり情緒不安定だったりすると、就労・収入が安定しくなり貧困状態に陥りやすくなります。昔だったら祖父母や地域がそのような家庭を支えていましたが、今は以前とは違います。また親の成育歴が子育てに影響し、シングルマザーの場合は孤立している母親の精神状態が、結果的に貧困や虐待の原因になるケースが増えていると感じています。貧困と虐待は、親から子へ連鎖していくことが多いのです」。

子どもたちが放つ輝き

「園に来たばかりの子どもたちの大半は自己肯定感が低く、大人の顔色に敏感です。強い者についていくという生きる術を自然に身に付けてきているのです」と複雑な表情の山内さん。続けて、「でも、周囲の人たちには子どもたちや親ともっと関わりをもってもらいたい。四六時中一緒にいる私たち職員でも限界があります。YMCAのスタッフと子どもたち、親同士の交流の場が設けられたらいいですね。外の世界にふれ、夢を持つきっかけづくりの場になるかもしれません」と、新たな展開を模索中のようです。「YMCAは発達障がいの子どもの支援を続けていますが、この分野の経験を持つ職員が少ないため、ノウハウを教えてもらいたい」とも話します。



希望者が教会に集って行われる中高生会

いつも子どもたちの目線でいられる山内さん。心の持ち様について尋ねました。「子どもが変わっていく姿を見守ることができるのがこの仕事のやりがいです。一人ひとりの子どもが放つ光をもっと輝くものにしてあげたいですね」。

前述の4歳の女の子は、入所後しばらくして可愛い笑顔を見せるようになりました。特に幼児など低年齢の子どもたちに、慈愛園の職員はスキンシップやコミュニケーションを欠かさないといます。こうした山内さんらの努力によって、71名の子どもたちが今日も慈愛園で暮らしています。

互いを認め合う社会に

「地域社会へメッセージを」との依頼に山内さんはこう答えてくれました。「一人ひとりが、あまりにも個人主義になって、自分さえ良ければ、という風潮が強くなっているのではないのでしょうか。多様な価値観を認める“みんな違って、みんないい”という社会と、それぞれが好き勝手ばらばらに生きていて、極端に言えば無視し合っている社会とは同義ではないはずです。でこぼこがあっても、障がいがあっても、大変な人生で叶わないことがあっても、お互いを認め合い、補い合い支え合う社会になってほしいですね」。そう語る山内さんの目は優しくも、まっすぐを前を見つめていました。

Pickup

ぶどうの木幼児園
親子遠足



県中学生選手権で
個人総合優勝
YMCA体操チーム
山田晟太郎さん(中3)

アースウィーク
ノーマイカーデー
パレード(4/22)



Information 行こう 見よう 深めよう

8月30日～9月9日

出会うべき世界が、そこにある 第22回タイ・ユースワークキャンプ

ワーク
×
学ぶ

北部タイ山岳少数民族の生活や文化にふれ、相互交流や異文化理解を深めます。ワークキャンプでは、タイ農村地帯の自立支援のために、タイの人々と協力して生活設備の整備を手伝います(ワークプログラム)。また、子どもたちとの活動などを通して、タイの抱える問題や文化・歴史についても学びます。厳しい現実の中でも、前向きに生きるタイの人々の生き方にふれ、「真の豊かさ」について考えてみませんか。

日 8月30日(水)～9月9日(土) (9泊11日) 場 タイ国チェンライ県・パヤオ県

対 高校生以上35歳までで、健康状態に問題がなく、主体的に参加する意志のある方 ※参加者は事前研修(2回実施)に参加していただきます。

定 20名(最少催行人員10名) ※最少催行人員に満たない場合等、やむをえず実施できない場合もあります。

費 185,000円

※フライトの予約状況等により、参加費の価格変更を行う可能性があります。

※航空運賃、宿泊費、食費、現地交通費など現地訪問にかかる経費が含まれます。

パスポート取得代金、海外旅行保険は含まれません。

企画主催 公益財団法人 熊本YMCA

旅行主催 ㈱日専連ツアーズ 観光庁長官登録旅行業第1085号

申込締切 7月7日(金) 申 上通YMCA TEL 096-352-2344



8月4日～8日

この夏!広島で平和について考える! 国際青少年平和セミナー

交流
×
学ぶ

広島YMCA国際青少年平和セミナーは、1980年に「平和」ということについて深く考え、平和教育と国際交流を図ることを目的にスタートしました。日本中の若者はもちろん、海外の若者も広島に集まり、毎年8月6日の原爆の日に合わせて行われています。

同じ若者でも育った国や環境が違えば戦争・平和に関する考えが違います。このプログラムを通し、参加者は考え方の違いを受け止め、平和について自分たちにできることを見だし、平和の大切さを強く胸に刻みます。次世代の平和を希求する若者を育てる活動として今年で39回目を迎えました。

日 8月4日(金)～8日(火) 場 広島市・廿日市市

対 青少年(高校生・専門学校生・短大生・大学生)

定 被爆体験講話、平和ワークショップ、原爆資料館見学、原爆慰霊碑めぐり、平和記念式典参列、宮島フィールドトリップなど

費 90,000円(熊本～広島の交通費含む)

催 広島YMCA

申込締切 7月8日(土)

他 参加者には事前研修を実施します。日程は別途お知らせします。

申 熊本YMCA CI部 TEL 096-353-6397



タイ・ユースワークキャンプ説明会

日 6月10日(土) 15:30～16:30 / 6月24日(土) 15:30～16:30

場 上通YMCA(熊本市中央区上通町5-5)

参加希望の方は、事前にご連絡ください。

広島YMCA国際青少年平和セミナー説明会

日 6月24日(土) 15:30～16:30

場 上通YMCA(熊本市中央区上通町5-5)

参加希望の方は、事前にご連絡ください。

※タイ・ユースワークキャンプ、国際青少年平和セミナーの参加費は学生に限り、最大で半額の助成が受けられます。(助成を受けるには申請が必要です。助成額は申請後の審査により決定します。申請条件等詳しくはお問い合わせください)

6月18日 Sunday

小さな市場 むさしマルシェ

体験
×
バザー

地域の皆さんに、気軽に立ち寄っていただけるYMCAになることを目指して始まった、小さな市場「むさしマルシェ」。食バザーのほか、かわいい手作り小物、雑貨などを販売予定です。当日はプールを無料開放。ぜひご家族揃ってお越しください。マルシェの益金はむさしYMCAが行う地域活動等のために用いられます。

日 6月18日(日) マルシェ10:00～13:00

／プール開放10:00～12:30

場 むさしYMCA(合志市幾久富1866-1339)

問 むさしYMCA TEL 096-248-6334



子どもたちと思い出と感動を共有 YMCAキャンプリーダー募集

6月25日 Sunday

体験
×
感動

熊本YMCAで実施する子どもたち対象のシーズンキャンプ(春・夏・冬)や月に1回行っている野外活動クラブにボランティアとして携わるキャンプリーダーを募集します。

毎年、たくさん子どもたちがYMCAキャンプに参加しています。キャンプの中では「リーダー」と呼ばれるカウンセラー的役割をもったユースリーダーたちが活躍しています。活動の中でリーダーシップを学び、様々な場面で応用できるコミュニケーションの力が養われます。将来、子どもたちと関わるお仕事を目指す学生の皆さん、子ども大好き・キャンプ大好きという皆さんの参加をお待ちしています。子どもたちと一緒にキャンプで楽しみ、思い出と感動を共有したい方、大歓迎です。下記の要項でトレーニングを実施しますので、ぜひご参加ください。

YMCAキャンプリーダートレーニング

日 6月25日(日) 10:00～17:00

対 YMCAキャンプとは、グループワーク、コミュニケーション、キャンプリーダーの役割・対象の理解、PTSD専門の精神科医による子どもの心のケア講習 など

場 ながみねファミリーYMCA(熊本市東区長嶺南3-1-107)

対 高校生以上の男女(高校生・短大・専門学校・大学生・一般)

※子どもたちと宿泊を伴うキャンプ、野外活動に参加できる人
持ち物 筆記用具・昼食・動きやすい格好

申 6月17日(土)までに電話にてご連絡ください

阿蘇YMCA(担当:山田真二) TEL 0967-35-0124



R | E | P | O | R | T

[4月 ⇒ 5月9日]

被災した子どもたちのために 国際ユースボランティアに助成金

熊本県内の大学生らが活動するYMCA国際ユースボランティア。月2回の定例ミーティングの他、留学生との交流プログラムやボランティア活動を行っています。活動はすべて学生主体で行われ、熊本地震後は阿蘇YMCAのボランティアセンターの運営サポートや農業支援などの復興支援活動にも取り組みました。

今後、熊本地震で被災した子どもたちの心のケアにつながる活動を行っていくことを目指し、公益財団法人キリン福祉財団の熊本地震復興応援事業助成金

に応募。厳正なる審査を通過し、助成金19万円を受けることができました。

5月9日(火)にはキリンビール株式会社熊本統括支社にて贈呈式が行われ、YMCA職員とともに、ユースボランティアメンバーの上野愛理さんが出席。「様々なアプローチから社会福祉のために活動されている団体があることが分かり、とても刺激を受けました。いただいた助成金を大切に使い、熊本の復興のために尽力したいです」と感想を述べてくれました。



共に寄り添う3日間

5月3日(水)～5日(金)2泊3日の日程で、西日本地区YMCAリーダー研修会が阿蘇YMCAにて行われ、広島、福岡、鹿児島、熊本のユースリーダー、スタッフ、総勢31名が参加しました。

今回の研修会のテーマは、「「みんないい!」～共に寄り添い、ありがとうを伝えよう～」。礼拝、基調講演の他、野外調理やワーク、キャンプファイヤー等の活動を通し、参加者たちは互いのいいところや、「ありがとう」と感じることを探しました。今後、プログラム指導をする中でも、子どもたちのいいところを見出し

西日本地区YMCAリーダー研修会

ていけるような関わり方をしていきます。

今回、熊本YMCAが中心となり、この研修会を進めていきました。実行委員のユースリーダーたちからは、「全体を把握することや時間の使い方が難しかった。支えてくださった皆さんに感謝します」、「他県のユースリーダーと交流でき、勉強になりました」などの感想が聞かれました。ワークでは、野菜畑を作ったり、花壇をリニューアルしたりしました。阿蘇YMCAに行ったら、どこにあるのか探してみてくださいね。

ながみねファミリーYMCA 下田奈央子



県内唯一のNSCA-CPT認定校に YMCA学院健康スポーツ科

2017年度4月より、熊本YMCA学院健康スポーツ科がNSCA-CPT認定校になりました。NSCA-CPT(NSCA認定パーソナルトレーナー)とは、国際的に最も信頼あるトレーナー教育機関「NSCA」が認める基礎レベルが非常に高いトレーナーの国際ライセンスです。

認定校は、NSCAが提唱する基準とガイドラインにしたがい、パーソナルトレーニング(クライアントとトレーナーが1対1で行う、個人に合わせた指導)の専門

家を養成することができます。NSCA-CPT資格の受験や教材、即戦力のトレーナーとなるためのNSCA主催講習会の受講などに対して、様々なサポートが得られます。

YMCA学院が熊本県唯一の認定校になったことで、在学生たちの資格取得への意気込みもますます強くなったようです。カリキュラムの質をさらに高め、トレーナーを目指す学生の夢を応援します。

YMCA学院 横山純一郎



総主事の
タラコ
トコ Vol.37

ピンチはチャンス

息子から、今の仕事についての相談を受けました。学生時代から自宅を離れ、好きなことに時間を割いて努力する姿に成長を感じていました。悩んでいるのも仕事のことを真剣に考えているからこそだと思います。「自分の信じる道を進みなさい」と励ますことしかできませんが、乗り越えてくれると信じています。

新しい生活に夢と希望を抱き、社会人になった30年前の自分自身を振り返ると、悩みなが

らも信念を持ち、YMCAの中でやりたいことを提案し、いつの間にか様々な経験を積み上げることができました。時には自分の好きな仕事ができなくても、与えられた仕事の中で、新しい力が発揮されたり、物事を別の角度から見るができるようになったり。その結果、モチベーションのアップにつながっていくことも多々ありました。

悩みながらも、頑張っているうちに認められていき、本当にやりたいことを自分の仕事にすることもできるでしょう。

私は以前、体操の指導をしていました。大小はあるにしても体操選手はケガがつきもので、付き合っていかなければなりません。以前、足に大けがをして入院した体操の選手がいました。隣のベッドには、同じく足を痛めた先輩が入院していました。彼は足が使えないので腕

のトレーニングをしていました。先輩がやっている以上、自分も同じようにやるしかなく、その結果、それまで以上に腕力が強くなったそうです。ケガをしたことを後悔してもはじまらず、そのケガを受け止め、今できることに集中することの大切さを学んだのです。「この経験があったからこそ、ケガを克服し、活躍できた。今の自分があるのは、入院した時の先輩の姿を見たからだ」と感謝していました。困難に直面した時に、「どうしてこうなってしまったのだろう」と悲観的にとらえるのか、「この機会を活かしてできることはないか」ととらえるかは、大きな差につながります。困難な状態にある時に、不平不満、愚痴をこぼしそうになりますが、そんな時こそ、別の視点で考え、知恵を出し、チャレンジすることが大切です。その姿に必ず支援者が現れると信じて歩んでいきたいものです。

t a l a n t o n

復興祈念パネルディスカッション開催「熊本地震から1年。進もう、前へ」

4月15日(土)、熊本地震発生直後からそれぞれの立場で支援に関わってこられた3名を迎えてパネルディスカッションを開催。「熊本地震で何が求められ、これから何をすべきか」をテーマに、語っていただきました。その一部をご紹介します。

山根 熊本地震から1年。今日は、皆で安心して“前に進む”ためのお話をうかがいます。まずは皆さんの地震直後の動きを教えてください。

木村 熊本県庁の総務部長を務めており、総務省に戻る直前に地震が発生。余震が続く中、自衛隊、警察、消防と連携して人命救助を第一としました。自治体もパニック状態。益城町、御船町の2つの大規模避難所の運営は、熊本YMCAが指定管理者だったから行えたことです。

栗田 JVOADは、すぐに地元のNPOと連携し、支援のモレやヌケ、ムラを無くすことを目指しました。連携・協働を行うための「熊本地震・支援団体火の国会議」には、県域で活動している300団体ほどのNPO・NGOが毎週参加。多方面の支援を行ったのが、熊本地震の大きな特徴の一つだと思っています。

安田 益城町の避難所を訪ねた時、天井に布がかけられていたのが印象的でした。天井を見て恐怖を思い出さないようにとの配慮を通して、避難所で暮らす人々の内面の問題を感じ、長い時間をかけて向き合わなくてはと痛感しました。

山根 この1年でできたこと、今後の課題などについてお聞かせください。

栗田 避難所では、命と心身の健康が守られ、人としての尊厳を守るという視点が重要でした。行政はすべてを担えません。住民は“自分たちで何かをしよう”という気持ちを持ち、地域社会、地縁組織などの力で行うこと。一人ひとりが、できることにできる形で関わり、生きがいを持つことが大切です。

木村 私は失敗も含め、自らの経験を伝えていきます。行政は、住民からの情報が届かなければ必要なものが分かりません。地域住民は普段から行政にもっと入り、どんどんニーズを伝え、行政の職員を信頼できるパートナーとすべきです。

安田 避難所で、88歳の一人暮らしのおじいちゃん取材しました。健康に気を遣う社交的な方でしたが、仮設住宅への入居直後に倒れ、車椅子生活に。その後、外出も自由にならず表情が一変されました。熊本地震以降、要介護率が高くなっています。仮設住宅への入居後、見えにくくなっているから

こそ求められている支援について考えなくては。

山根 “一歩前に進む”という視点から、今できることは。

栗田 山があり、谷がある美しい熊本を皆に紹介したい。熊本の良さを外部の人に情報発信することが、私たちができる最大の支援。若い人も巻き込んで、ピンチをチャンスに変えるべきです。

木村 一人ひとりが役割を持つことで認められ、生きていくのがこの国の民主主義。住民が住民自治に生きがいを感じ、住み続けたいと思えるような仕掛けをすることで、災害が意味あることになっていきます。“おせっかい”が認められる社会になることが理想です。

安田 あるイチゴ農家の方が、自然は怖いとその恩恵と共に生かされてきたと話されました。人間の力で自然を抑えこむのではなく、いかにして同じ場所で生きていくか。その魅力を発信しながら、人が訪れる町になるかどうか復興の鍵になるでしょう。外の私たちが持つべき大切な視点は、住民、支援者を孤立させずいろいろな角度から一歩前へ進むことを支援することだと思います。

山根 今後の支援の根底にあるのは、目の前の命を大切に、いかに輝かせていくかでしょう。地域住民の笑顔を見に、地域を訪ねることも前に進むための一歩になります。今後、復興の長い道のりが待っています。皆で助け合いながら共に前に進み、命を輝かせていきましょう。



コーディネーター
山根 一毅さん
日本YMCA同盟協力部門
国際担当主任主事



パネリスト **木村 敬さん**
総務省自治財政局公営企業課
理事官
前熊本県総務部長



栗田 暢之さん
全国災害ボランティア支援団体
ネットワーク(JVOAD)代表理事
認定特定非営利活動法人
レスキューストックヤード代表理事



安田 菜津紀さん
studio AFTERMODE所属
フォトジャーナリスト
国内外で貧困や災害の取材を進め、陸前高田市や熊本の被災地から情報発信を続けている

上ることができません。

私たちは希望があれば、倒されても、再び起き

希望が与えられ、潤されることになるでしょう。

励ましの言葉をかけてあげたりして、人に希望を

与えて潤します。それによって、自分にも必要な

希望が与えられ、潤されることになるでしょう。

私たちが希望があれば、倒されても、再び起き

上ることができません。

私は青春時代の一時を屋久島で過ごしました。いまだに私は屋久島の大自然の魅力に惚れています。自然があふれている中で、きわめて目立つ一つは屋久杉という木です。屋久島は雨も多く、しばしば台風に見舞われます。しかし、それこそが、屋久杉を強くする要因の一つだといわれています。屋久杉の特長の一つは倒されても、その株の上に芽を出し、新たな杉がまた育つことです。家族で山をハイキングしたときに見かけた一つの屋久杉の木は「三代杉」と呼ばれていました。最初の木が倒され、二代目の杉がその株から育ち、これもいずれ倒されて、三代目の木が育っていることから名前が付けられたそうです。

自然界は厳しい。その中で、生き続けるためには不屈の希望が必要です。私たちも生きていくためには同じように希望が必要です。

もう一つの聖書のことは、「気前のよい人は自分も太り、他を潤す人は自分も潤う。」(箴言11:25)とあります。誰もが、励まされ、潤されることを願います。周りには希望が必要な人がたくさんいます。やさしくしてあげたり、親切にしたり、励ましの言葉をかけてあげたりして、人に希望を与えて潤します。それによって、自分にも必要な希望が与えられ、潤されることになるでしょう。

私たちが希望があれば、倒されても、再び起き

上ることができません。

希望に潤される

木には希望がある、というように、木は切られても、また新芽を吹き、若枝の絶えることはない。／地におろしたその根が古い／幹が朽ちて、塵に返ろうとも／水気にあえば、また芽を吹き、苗木のように枝を張る。

ヨブ記14章7〜9節

わたしと聖句

有明バイブルチャーチ
ケイラー・ロバート



発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡 成也 編集人／富森 靖博
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2017年度基本聖句

ヘブライ人への手紙 13章5節

わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない。